



株式会社 ニコン

中期経営計画について

2012年5月10日

株式会社ニコン

※本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現在における入手可能な情報に基づき当社が判断した内容であり、潜在的リスク及び不確実性が含まれます。従いまして、様々な要因の変化によって、実際の業績は記述されている内容と大きく乖離する結果となる可能性があることをご承知おきください。

Agenda

- I. 前年度の取り組み
- II. グループが目指す姿及び重点課題
- III. 経営目標
- IV. 株主還元

前年度の取り組み

株式会社ニコン



12年3月期の目標と実績

| | 目標 | 実績 |
|------|---------|---------|
| 売上高 | 9,400億円 | 9,187億円 |
| 営業利益 | 680億円 | 801億円 |

初年度の売上高は若干未達、営業利益は達成
継続的成長を目指す方針は不変

上半期：震災からの復興

下半期：タイの洪水被害からの復旧

半導体露光装置：S620D拡販、S621D・S320F出荷
プロセス改革による生産リードタイム短縮

液晶露光装置：中小型高精細パネルの
急速な需要の高まりに対応

新製品Nikon 1によるノンレフレックス市場の拡大

コンパクト市場縮小の中、数量増大による
シェアアップとブランド認知の促進

新興国市場開拓（映像、インストルメンツ事業）

超解像顕微鏡の拡販と
X線装置を含む非接触三次元測定機の開発強化

Agenda

- I. 前年度の取り組み
- II. グループが目指す姿及び重点課題**
- III. 経営目標
- IV. 株主還元

常に新たな価値を提供し 成長し続けるニコングループ

ニコンブランドを一層拡がりのあるものとする

環境変化に柔軟かつスピード感を持って対応できる
強靱な企業体質を実現

既存事業は、確固たるリーディングポジションの獲得を実現

新領域へ進出し、計画年度内に柱となる新事業を創出

社会的責任(CSR)の重要性を認識し社会の持続的発展に貢献

- **事業強化とポートフォリオ改善**
 - 既存事業の事業拡大と収益性向上
 - 新事業育成
 - 企業や研究機関とのアライアンスも視野に入れたグループの柱となる新事業の育成
- **事業機能強化と業務プロセス改革による強靱な企業体質の実現**
- **CSRを常に意識した事業活動のグローバル展開**

事業環境全般

- 世界の経済環境は不安材料はあるものの緩やかに成長
- 国内の経済環境は厳しい状況が続く
- 為替の円高傾向は継続

3カンパニーの事業環境

精機事業

半導体分野は12年後半以降回復

液晶分野は12年は低迷するが13年以降に回復

映像事業

レンズ交換式カメラ市場は成長を維持

コンパクトカメラ市場は成熟、ただし新興国拡大は継続

インストルメンツ事業

バイオではライブセルイメージング分野、産業機器では非接触三次元測定機分野が成長
アジア市場拡大が継続

事業方針

- 液浸露光装置の競争力強化によるシェア拡大
- 高精細化、高精度化に対応した液晶露光装置の展開
- リードタイム短縮・コストダウンによる収益力強化
- 新技術の開発・新事業分野への進出

2015年3月期

| | 市場 | 目標 |
|-------------|-----------------------|-----------|
| 半導体 露光装置 | 300台程度 液浸割合：30～40% | 液浸シェア：40% |
| 液晶 露光装置 | 70台程度 大型向け投資が回復 | シェア：60%強 |



事業方針

- 技術力で明確に差別化された商品の継続的投入
- 新興国でのブランド確立とリーディングポジション獲得
- 調達力強化を始めとするコスト競争力の抜本的向上
- 2015年3月期営業利益率15%の実現

2015年3月期

| | 市場 | 目標 |
|-----------------------|-------------------------|---------------------------------------|
| レンズ交換式 デジタル カメラ | 2,500万台程度 年率2桁の伸びが継続 | リーディングポジション を強化し、シェアアップ シェア:40% |
| コンパクト デジタル カメラ | 1億台程度 ほぼ横ばい | 継続的なシェア拡大 利益率向上 シェア:20% |

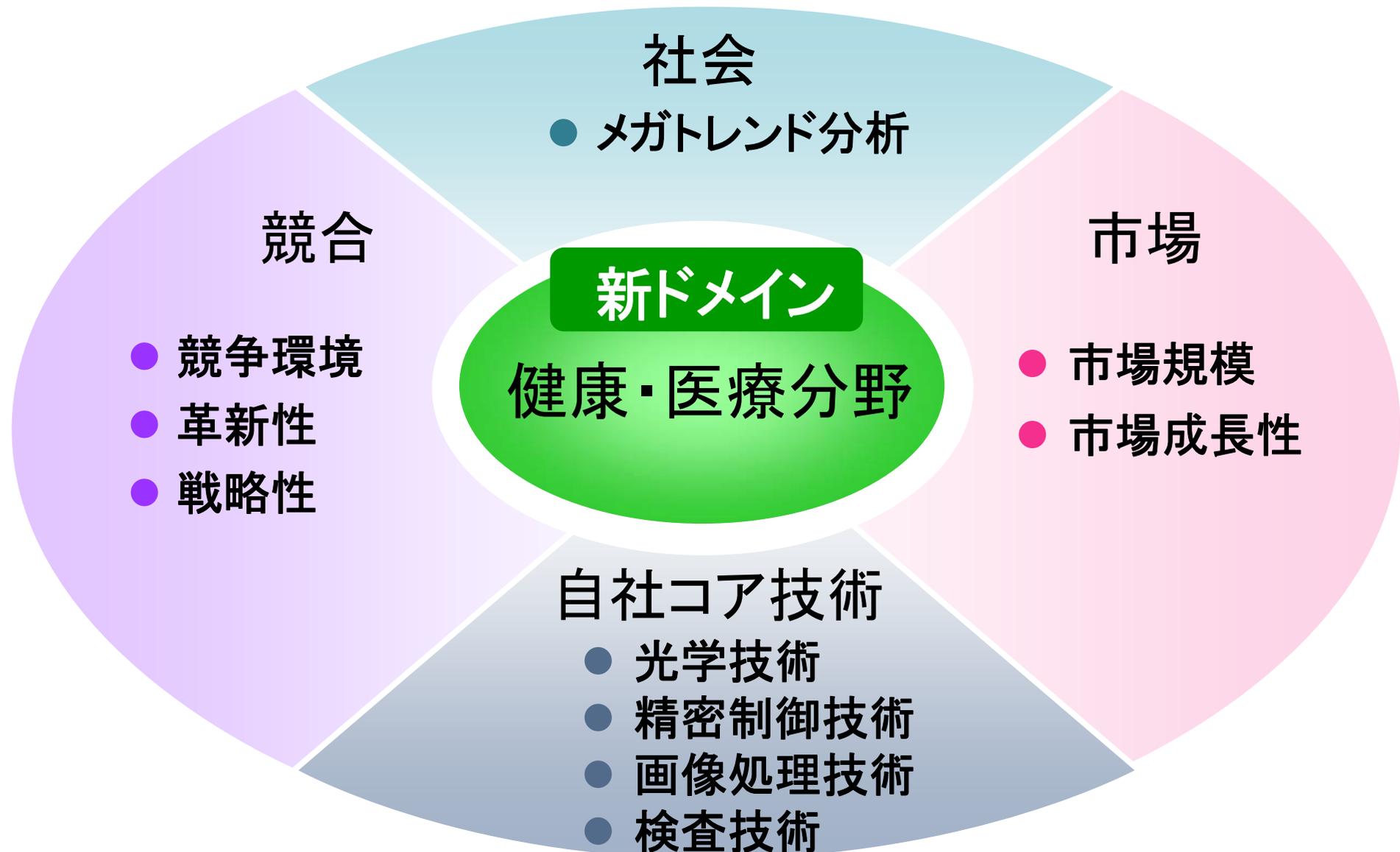


事業方針

- 顕微鏡：先端研究分野と共に一般研究・臨床市場においてもリーディングポジション獲得
- 測定機：非接触測定及びX線測定分野でリーディングポジション獲得
- 成長性の高い新興国市場への注力

2015年3月期

| | 市場 | 目標 |
|---------------|--------------------|---------------------------|
| 生物 顕微鏡 | 全体：成熟 ライブセルー高成長 | 超解像機能を拡充 |
| | アジアー高成長 | 中国拠点展開を加速 |
| 非接触 三次元測定機 | 年率10%の成長 | 光学技術で差別化加速 X線測定技術の開発強化 |



Agenda

I. 前年度の取り組み

II. グループの目指す姿及び重点課題

III. 経営目標

IV. 株主還元

経営数値目標(全社)

株式会社ニコン



| 単位: 億円 | 12年3月期 | 13年3月期 | 15年3月期 |
|--------|--------|--------|--------|
| 売上高 | 9,187 | 10,300 | 12,500 |
| 営業利益 | 801 | 900 | 1,500 |
| 当期純利益 | 593 | 650 | 950 |

| 為替の前提 単位: 円 | | | |
|-------------|-----|-----|-----|
| USD | 79 | 80 | 80 |
| EUR | 109 | 105 | 105 |

経営数値目標(カンパニー別)

株式会社ニコン



| 売上高 | 12年3月期 | 13年3月期 | 15年3月期 |
|--------|--------|--------|--------|
| 単位: 億円 | | | |
| 精機 | 2,481 | 2,100 | 3,200 |
| 映像 | 5,871 | 7,300 | 8,200 |
| インスト | 560 | 610 | 800 |

| 営業利益 | | | |
|-------------------|-------------|-------------|---------------|
| 単位: 億円 (対売上高比) | | | |
| 精機 | 427 (17.2%) | 250 (11.9%) | 500 (15.6%) |
| 映像 | 540 (9.2%) | 800 (11.0%) | 1,200 (14.6%) |
| インスト | ▲32 (-) | ▲10 (-) | 50 (6.3%) |

設備投資・研究開発計画

株式会社ニコン



既存事業の能力強化・合理化・省力化、新たな事業展開に必須の設備投資を行う。研究開発費は売上高比7%水準を維持。

精機事業



映像事業



インストルメンツ事業



2013年3月期～2015年3月期の累計

設備投資 : 総額 1,600億円 (前回計画比 100億円増額)

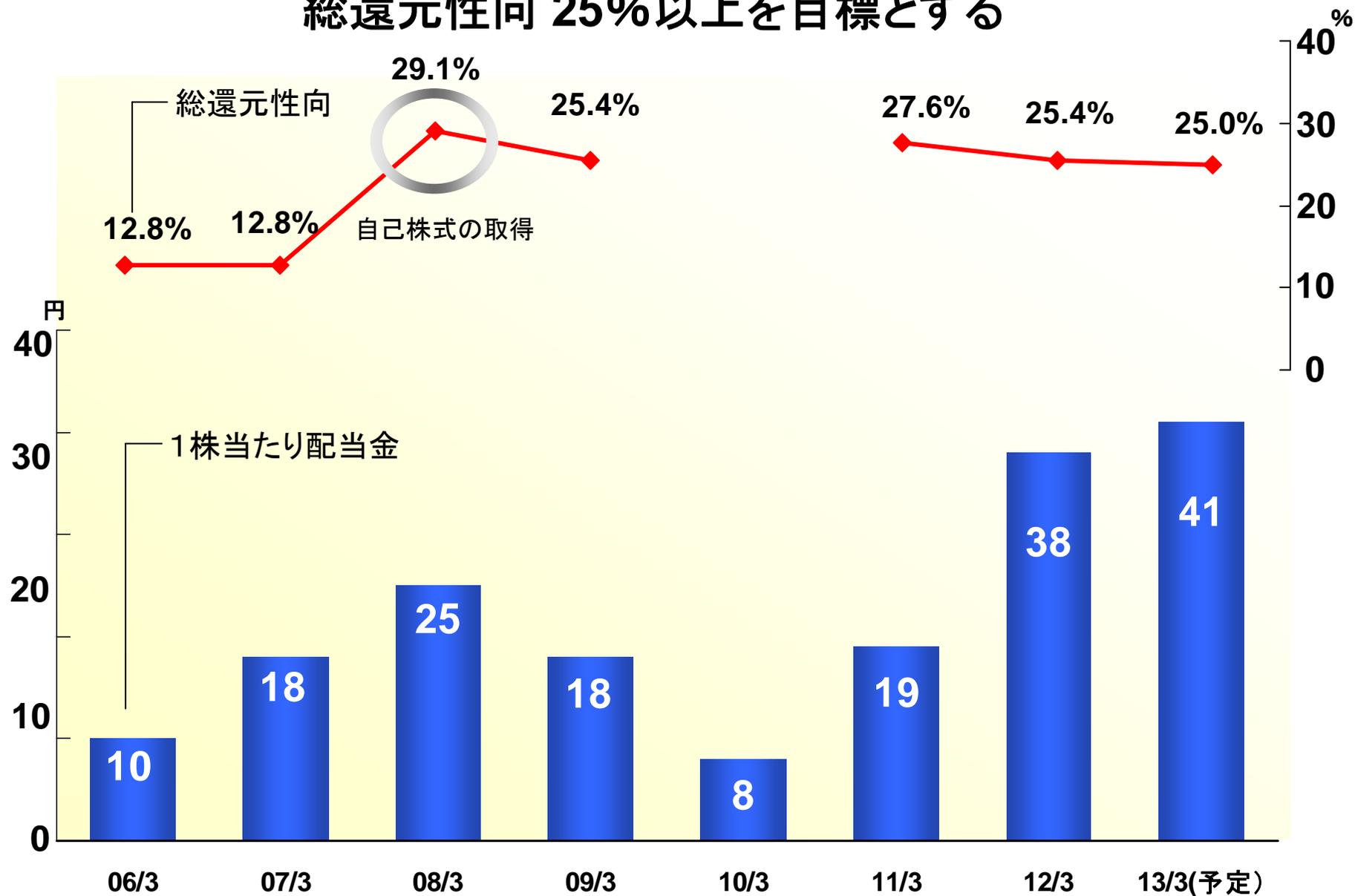
研究開発費 : 総額 2,500億円 (前回計画比 400億円増額)

Agenda

- I. 前年度の取り組み
- II. グループの目指す姿及び重点課題
- III. 経営目標
- IV. 株主還元**

一株当たり配当金と総還元性向

総還元性向 25%以上を目標とする





NIKON CORPORATION